

復活の水曜日の説教

金 大烈 神父 2010年4月7日(水)

《燃えましょう、熱い心を持って》

こんばんは

今日の福音(ルカ 24・13~35)の内容については、昨晚も少し申し上げたところがありますので、その点についての説明は省略させていただきます。

今日目に留まったところは、『イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目は開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか。」と語り合った。』(ルカ 24・30~33)と話されている箇所です。やはり“厚い信仰、深い信仰”といえれば自分の心が熱くなった、燃えた体験がなかったら“厚い信仰、深い信仰”という言い方は出来なんでしょう。「そのような体験が何回あったでしょうか。皆さん！」本当にこれは不思議と思われるくらいに、この胸が熱くなって、そして何の訳もなくよく解らないまま涙が出て、「すみませんでした。申し訳ございません。私は罪びとです。」という思いが、心から自然と出てしまう、このような経験が皆様にも必要です。

私は、神様のおっしゃることをよく聞かずにさぼっている放蕩息子ですので、たまにこのように悟らせて下さいます。ですから、「ああ、間違えたなあと思いながら、すみません、すみません」と、人の前では見せませんが、自分一人では泣きながら祈った経験があります。御前で祈る時には、堅い心を持つとうとしたのですが、どうしてもなくそういう気持ちになって、崩れてしまうことが子供の時から結構ありました。

今のこの時代、私達には燃えるような熱い気持ちが、心が、なによりも必要ではないかと思います。あまりにも頭を使い過ぎて、いつも頭で判断し、感じようとしているのが、今の時代の全体的な雰囲気ではないかと思います。

しかし、人間はやはり、心から始めます。心から始め心で終わります。ですから、その心が生きてるように、自分もその心を、何とかやわらかくしようと頑張らなければなりません。どうすれば、その心が生きている状態を保てるのでしょうか。それは意識から始めます。ちょっと自分のことを思い浮かべてください。テレビを見ても、若い時代は涙を流すことがなかったのに、今は何故こんなに涙が出るのか恥ずかしいと思うことがないですか。どうです？

さあ、私が説明しましょう。生理学的に男性は歳をとると女性ホルモンが増えてきて、女性は逆に男性ホルモンが増えてくるのだそうです。ですから、女性の場合、乙女の頃はものすごく恥かしがり屋で、本当に素直だった方でも、段々あつかましくなって、もう何でも言える傾きが生じるようになるのが自然だそうです。また、男性の場合は、結婚する前には何でも出来るように、気も強く、たく

ましい姿をよく見せていたのですが、いつのまにかテレビを見て、なんでもないものに涙を出してしまうようになるのだそうです。これは、人間の自然な流れだと思います。とにかく私達が、他人の心をどうにかすることは無理だと思いますが、自分の心ぐらゐは、自分が管理できるようになったほうがいいのではないかと試してみました。燃えましょう！ 正しいことに燃えましょう！ 鈍くなったらもう人間ではありません。かわいそうな、気の毒な自分を作らないように頑張りましょう。生き生きとしましょう！

別な話ですが、今日、聖堂の後方に置いてあった「さいたま教区報」を開いてみたら、子供達からのメッセージという項目がありました。その中に「司祭年にあたり、子供達が見た司祭像」そして「太田教会から3名」とありました。これを目にしたとたん、「何だろうこれ、どんな話書かれているのか」と、胸がドキドキしました。(笑い)ちょっと驚きましたが、「まあこれくらいなら80点以上ではないか」と思いました。皆様もご覧になって下さい。そして、感じたことは“心配り”ということです。子供から大人まで、一生懸命信仰の生活をしている人から、ほとんど信仰から遠ざかっている人々まで、心を配らなければならないのが私の立場ですよね。100%、200%注いであげたい気持はいっぱいなのですが、それでも限界があります。また注いでも、人々の受け入れる形もそれぞれに違い、好みも違います。ですから、どの方法を選んでも、何かを進めて行っても、反対する人、傷を受ける人は必ず現れます。

神学生のとときの先生の話思い出しました。「あなたがたは色々な司祭達をみて、何故そのような司牧をしているのか、私が司祭になったらもっと上手く出来るよ。」という気持でここに座っていると思います。しかし、「あなたが100%、200%上手く司牧が出来ていると思っても、その半分はあなたに反対。そのように思わなかったら悔しくて絶対この道は進めません。」このように話されたことを覚えています。そして、慰めになったのは、「イエス様も失敗した人物です。結局裏切りもあったし、全てを注いだ弟子達も、全員逃げ出してしまった。だからあなた方は司祭になって、唯一つ“心を込めてこの人々のためにやる”という良心があればそれでいい。それ以外の評判とか評価とかは気にせず、傷をうけないように、真っすぐに行きなさい。」とおっしゃった学長神父様の話を今日思い出しました。

さあ皆様、司祭のために祈りが必要です。司祭のために祈って下さい。

ありがとうございました。